

青春時代を大切に



文学部長
都筑 学
Manabu TSUZUKI

みなさん、入学おめでとうございます。みなさんは、青春時代の真っ直中を生きています。この時期は、二度とは戻ってきません。一瞬一瞬がとても大事なものです。かけがえのない時間です。さまざまなことを経験しながら、成長してもらいたいと思います。

私もかつて大学生だった頃があります。それは1970年代前半のことです。ケータイもインターネットもありませんでした。コンビニもありませんでした。それが普通だったので、特に不便だと感じたことはなかったのです。

学生時代は、池袋の古ぼけたアパートに暮らしていました。夜中にふと友だちに会いたくなることがあります。お互いに電話も持っていません。訪ねていくしか方法がありませんでした。雑司ヶ谷まで、夜の街を歩いて行きました。友だちのアパートに着くと、留守でした。会えず仕舞いで、戻るしかありません。こんなことは、今では考えられないことでしょう。

人は時代の空気を吸って生きていきます。みなさん方は、2016年という今をきているわけです。とにかくやたらと便利で、スピーディに物事が進んで行く。それが現代日本の特徴の一つです。ちょっと立ち止まっていると、波に乗り遅れてしまう。あるいは、波にさらわれて、どこか遠くの島に打ち上げられてしまう。そんな強迫観念に追いかけれながら生きていく。それが現代社会を生きる私たちの宿命なのでしょうか。私はそんなふうには思いたくありません。

時代の空気を吸って生きていくと言っても、受動的というわけではありません。人間には、自ら取捨選択するという能力が備わっています。社会が早く動いていくならば、みなさん方には、ゆっくり歩いて行ってほしい。自分の頭で、じっくり考えてもらいたいものです。ときどきは立ち止まって、休んでみる。そうした思い切りも大切です。

みなさん方は、これから何年か経てば、実社会に出ていきます。今は、大学という環境で、社会に出る準備をしているわけです。大学生活では、さまざまな役割実験をすることが可能です。いろいろな職種のアルバイトをやってみるのもよいでしょう。自分の専門以外の授業に出てみるのもよいでしょう。ボランティアもサークルも、やろうとすれば何でもできます。夏休みも冬休みも春休みも、たっぷりあります。それを活かさない手はありません。

青春時代は、一度きりです。よく学び、よく遊ぶこと。失敗を恐れず、何ごとにも挑戦してみる。自らの殻をやぶって、一回りも二回りも大きくなる。青春時代は、可能性に満ちています。それを実現していくことを心から祈っています。

今、そこにある問題を解決するー総合政策って何？



総合政策学部長
松野 良一
Ryoichi MATSUNO

総合政策学部の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんはこれから、いろんな人に、「総合政策って何するところ？」と何十回も聞かれることになるでしょう。私は100回以上聞かれました。

簡単に説明すると、こうです。いろんな分野の学問を、幅広く学びます。「教養」を身につけるとしてください。「語学」は、英語を入れて10語種あります。アジアの言語が充実しています。しかし、外国語大学ではありません。

教養を身に付け、語学力を鍛え、それで何をやるのでしょうか？

総合政策学部とは、国内外における社会問題の解決や社会現象の解明を目指し、グループワークで知恵とアイデアを出し合い、現地調査やインタビューなどを踏まえ、最終的に解決のための政策提言を行うというトレーニングをする学部です。

これまでの大学が、象牙の塔に閉じこもり、実際の社会問題の解決に貢献してこなかったのではないか、という反省から生まれた学部ともいわれています。

先輩たちが取り組んだ事例を紹介します。

まず、国際系です。①カンボジアの孤児院の孤児は雇われた子どもだった②フィリピンのゴミ問題と新しいソーシャルビジネス③タイのヒット映画「メナムの残照」に描かれた日本人兵士の真相④バリ島残留日本兵⑤台湾二二八事件と中央大学卒業生⑥北方領土問題に関するフィールド調査などです。

政策系では、①3.11以後のエネルギー政策はどうあるべきか②医薬品のネット販売は全面解禁すべきか③非正規雇用から正規雇用への政策④地下街の老朽化と地下街の存在意義⑤忘れられる権利ーネット社会の法制度⑥「おバカ投稿」の因子分析的研究などです。

このように、大前提として社会問題や現象、謎などがあり、その解決や解明のために、グループでアイデアを出し合い、学生たちが自主的に取り組むのが本学部の特色です。

このため、総合政策学部では、「現場」を重視します。学問分野を幅広く学び、フィールドに行き関係者から話を聞き、調査を行って、問題解決や解明を図ります。そういうトレーニングを繰り返すことによって、皆さんの総合的な能力を開発し、自信につなげていくことを目標にしています。

さあ、みなさん。教養と語学力を持って、「今、そこにある問題」に取り組んでみましょう！